

花壇づくりワークショップ ニュースレター

Vol. **01**

H28年8月19日号



花修景のための基礎講座を 開催しました

昨年度に引き続き、花壇づくりワークショップが始まりました。馬見丘陵公園で開催される10月のフラワーフェスタ、4月のチューリップフェアでの花壇出展に向けて、全7回のワークショップを開催します。

今回は、花緑ボランティア、馬見グリーンクラブ、ガールスカウト、グリーンサポートネット、夢庭会、福祉住宅体験案内ボランティアなど、様々な方面からお集まりいただきました。

本年度は秋だけでなく、冬、春の3回花壇をつくります。季節の移り変わりに合わせて、草花がどう変わるか、どのように花壇を手入れしたらよいか、皆さんと一緒に楽しく学びましょう！

日時：平成28年8月19日（金）
13:30～14:40

場所：馬見丘陵公園ボランティアハウス
参加者：25人

◆ 当日のスケジュール ◆

13:15 受付
13:30 開会の挨拶、全体説明
13:40 ガーデニングの基本講習
14:30 質問コーナー、アンケート
14:40 終了



花修景の基礎を学ぼう

元 東はりまフォルクスガーデン黒田庄・たじま高原植物園技術員の中島清統氏を講師に迎えて、今年度から初めて参加される方を対象として、花修景の基礎講義を行いました。

今日は草花の選び方や土づくり、肥料・水のやり方など、基本的なお話をいただきました。花壇をデザインするためには覚えることが沢山あって大変かと思いますが、植物を育てることを楽しめるように基本的な作業を身に付けましょう。次回からは実際に植物を見ながら手入れの仕方を勉強します！！



現在の花壇の状態



昨年度植えた花は、予想以上に大きく育っていたり枯れてしまったなど、当初の花壇のイメージとは大きく様変わりしています。ここからどんな花壇に代わるか楽しみですね。



本年度のスケジュール

基礎講座(終了)	8/19 (金)	13:30～14:30
①デザイン編 WS	8/31 (水)	13:30～15:30
②施工編 WS	9/21 (水)	9:30～12:00
③デザイン編 WS	10/26 (水)	13:30～15:30
④施工編 WS	11/16 (水)	9:30～12:00
⑤デザイン編 WS	2/22 (水)	13:30～15:30
⑥施工編 WS	3/15 (水)	9:30～12:00



花修景に関するQ&A（8/19 講義アンケートの回答）

Q.土の酸性度を測るにはどうしたらいいの？

pH 試験液は、計測したい土を水と試験液で溶いて、その水の色とpH計測表を見比べて判断します。pH試験紙は、計測したい土を水で溶いて、その上澄みにpH試験紙を浸して、試験紙の色とpH計測表を見比べて判断します。

ほかにも、土壌用酸度測定器を使う方法もありますが、安価に手に入るのは試験液や試験紙です。ホームセンターなどで購入することができます。



▲pH試験液（パナソニック）



▲pH試験紙（アサダ）

Q.土をリサイクルして使うにはどうしたらいいの？

新しくコンテナに植え付けるときや植替えの時は、基本的には新しい土を使います。一度使った土は養分が抜けてしまい、パワー不足になっているのでそのまま使っても植物はうまく育ちません。しかし古い土をきちんと処理して殺菌すれば、新しい土として再利用することができます。土の温度を上げて雑菌などを消毒する方法なので、この作業は出来れば夏のうちにやっておきましょう。また、古い土に混ぜるだけで殺菌改良が出来る土壌改良剤も多く市販されています。

◆土の再利用の手順◆

- ①庭土やコンテナから取り出した古い土は、古い根やゴミなどをきれいに取り除きます。
- ②ふるいにかけて、さらに細かいゴミを取り除いたら、大きめのビニール袋に入れます。
- ③水で全体を湿らせてから、密封します。
- ④夏なら4～5日、冬なら10日ほど直射日光に当てて殺菌します。黒いビニール袋の方が太陽光を集めてより効果的です。
- ⑤太陽光で殺菌処理すると悪い菌も良い菌も全て無くなるので、使用する時は堆肥等の有機肥料を混ぜてから使用しましょう。



▲土のリサイクル材
（ハイポネックスジャパン）

Q.肥料を入れるタイミングは？

植物によって肥料の量や与える時期は異なりますが、基本的には元肥（植物を植え付けるときに与える肥料）、追肥（栽培途中に生育状況に応じて与える肥料）、お礼肥（花が咲いた後や収穫後の与える肥料）を与えます。追肥を与える時期は下記の表を目安にしてください。

▼追肥が必要な時期

成長期	○	植物が大きくなるためには栄養が必要です。特に春先など、活発に成長するときは追肥を与えるようにします。
開花期	○	植物はかなりの栄養を開花に使い、消耗します。花を長く楽しむためにも追肥を与えるようにします。
開花後	○	開花後の植物は栄養不足になりがちです。一年後の種をつけさせたい場合は、特に与えます。
切り戻し後	○	その後の成長を促し、株を充実させるためには栄養が必要です。効き目の穏やかなものを与えます。
植替え後	×	植替え時には土に元肥を与えます。直後の追肥は、まだ根に傷がついたり株が弱っているため逆効果です。1～2週間後から与えるようにします。
病害虫の被害にあったとき	×	早く元気になるようにと肥料を与えるのは厳禁です。適切な対処をして株が回復したら、少しずつ与えるようにします。
宿根草の冬期間	○	地上部が枯れていても来年もまたきれいな花を咲かせるためには栄養が必要です。ただし、冬の間は与えすぎると肥料焼けを起こすことがあるので控えめにします。
球根植物の地上部が枯れているとき	○	地上が枯れていても、土の中で充実した球根を育てるために成長を続けているので、栄養が必要です。
植物の元気がなくなったとき	×	原因を調べるのが最優先です。

※このほかにもたくさん質問をいただきましたが、載せきれませんでした。講義の中で回答いたします。